

パナソニック研究指定校に

助成金でタブレット端末14台

三条大島中キャリア教育推進に

三条市立大島中学校(田中哲也校長・生徒七十九人)はこのほど、パナソニック教育財団(東京都)の特別研究指定校に採択された。助成金で導入したアップル製のタブレット端末14台を活用し、キャリア教育を推進する。



大島中が導入したタブレット端末と大島中の田中校長

財団の取り組みは、学校教育現場の教育課題の改善、ICT(情報通信技術)を効果的に活用して

子どもを育てる力を育むための取り組みを応援する「実践研究助成」事業の一つ。

特別研究指定校には二年間で百五十万円を助成するが、その枠は「狭き門」。平成三十年度は全国から十八件の応募があり、採択は大島中を含めわずか四校だった。

大島中の研究主題は「地域社会との連携と協働によるよりよい未来を創る生徒の育成」。

導入したタブレット端末を「学び合い」「情報収集・活用」「連携・協働」のツールとして活用。

社会とかがわり、深い学びを実現するキャリア教育の力キュラム開発・実践につなげる。

活動の具体例として、地元特産の果樹産品を生かした加工品の開発と販売がある。

昨年十二月、県立加茂農林高校との連携で西洋ナシ「ル・レクチエ」を使ったジャム作りを試み、プロジェクトは進行中。来年には修学旅行先の京都や「三条マルシェ」での商品販売も視野に入れている。

一連の活動で地域の事業所や高校などと連携す

るなか、端末は情報交換のすぐれたツールとして活用できるほか、写真や動画を撮影してネットで発信・宣伝、学校と地域が両得になる成果も出したいという。

端末数は多くはないが、小規模校のメリットで全校割でも五、六人に一台ずつ配分できる。田中校長は「生徒には外の広い世界と積極的にいかわり、未来をつくる意識をもたせたい。端末はそのための道具」と話している。